

國學院大學学術情報リポジトリ

特集「共存学」：日本発 共存社会モデル構築による世界貢献

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古沢, 広祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002307

特集 「共存学」

— 日本発 共存社会モデル構築による世界貢献 —

「日本発 共存社会モデル構築による世界貢献（共存学）」プロジェクトは、文部科学省21世紀COEプログラム研究拠点『神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成』（H.14～18）終了後に、本学の特色をさらに活かしてグローバルCOEプログラム拠点形成に応募すべく準備されたものである（H.21）。準備体制が遅れたこともあり採用には至らなかったが、國學院大學研究開発推進センターが神社界等からの寄附を受けて行う学術研究事業の一環として、新しい総合的学問領域たる「共存学」を開拓し推進するために、本プロジェクトは平成21年後半に始動した。

「共存学」の出発点は、本学の建学の精神にみる、自己の生命・共同体の「主体性」と、他者存在への「寛容性」「謙虚さ」を共に目指す学術理念にある。ここにいう「共存」とは、人間集団（地域社会、国家、国際社会）や人間生活と自然環境等の関係性において、敵対（他者の否認）ではなく、互いに存在を受け入れ（存在受容）ながら多様性構築の可能性を保持する様態をさす言葉である。いわば「共生」に至る以前の原基的な形態であり、複雑かつ錯綜する諸関係の多義的展開について考察することを可能とする概念である。

「共存学」プロジェクトは、こうした「共存」を主題に、地球環境の危機的状況から政治・経済的パワーバランスの流動化、人々の精神性の揺らぎに至るまで混迷を深める現代において、持続的発展を可能とする社会モデルを構築し提示しようとする試みである。日本研究における本学の蓄積、分けても建学の精神たる神道研究での実績は、本プロジェクトの土台である。その土台の上に立ち、歴史と現代社会にまたがる「日本発」の視座から見た「共存」の知恵の可能性と限界をたずねること、そして東アジア、さらには世界へ、という新たな枠組み設定のもとで人間生活の多面的要素に着目し、それらを

学際的に位置づけること、これが我々「共存学」の切り開こうとする地平である。そのために現在、具体的なテーマとして以下の3つの課題を設定している。

- (1) 過疎化・高齢化等に向き合う日本国内の地域社会（ローカルな視点）
- (2) 国家・民族間の相互尊重と安定を模索する東アジア社会（リージョナルな視点）
- (3) 環境変動、生物多様性・文化多様性等に対応する地球社会（グローバルな視点）

これら3つの次元での事例研究を積み重ねつつ、日本を起点とするパースペクティブから、共存社会システムについて3つのレベルを貫く問題を析出させるため、検討を重ねている。

「共存学」という問いを初めて世に問うた前号に続き、本号では「共存学」特集として6本の論文を掲載する。

「共存学の輪郭はまだクリアではない。しかし、取り組むべき実体と課題は確実に存在する。それが大きすぎて既存の学問のディシプリンに入りきらないだけである」（高橋克秀「アジア経済と「共存学」」（前号所収）より）。

私たちの学際的共同研究は、未だ試行の域を大きく離れるものではない。しかし、成長の臨界の認識、持続可能性の模索、という全人類的な課題の解決に取り組む世界の研究者達の列に、本学の特色を活かした研究発信を以て参加し、少しでも貢献したいと願ってやまない。

「共存学」プロジェクト代表 古 沢 広 祐